

令和元年度第3回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 令和元年10月15日（月） 午後3時～午後4時30分

2 場所 市役所会議棟 D会議室

3 出席者

(1) 委員

松本委員、森澤委員、岡村委員、小栗委員、岸委員、高橋委員、松永委員、山本委員（10人中8人出席）

※欠席委員 片川委員、沼田委員

アドバイザー：高島准教授

(2) 事務局

産業観光部文化資源活用課 太田課長、大谷係長

(3) 傍聴者

2名

4 概要

(1) 開会

(2) 報告事項

次の点について事務局から報告した。

- ・令和元年度文化芸術推進計画策定スケジュールについて

(3) 協議事項

- ・島田市文化芸術推進計画書素案の確認について

「○」委員からの質問・意見等 「→」事務局からの回答等

○：今回、具体的な取り組みを記載した。ただし、現在やっている事業を提示しても、7・8年先に継続している保証はない。市民の意見・願望の反映スペースがないため、情報として提供する参考資料とした。また、第4章の「新たな取り組み」について、内容の薄い部分があるため、皆さんの意見をいただきたい。

○：図書館で読み聞かせボランティアをやっているが、子どもにもボランティアとして参加してもらいたい。親子で参加できる食育講座、郷土料理の

料理教室などをやってもらいたい。親子で参加できる講座があれば、対象の底辺が広がると思う。

- ：「親子」や「食育」などのキーワードを拾っていきたい。
- ：趣味には、人の縁などにより出会う瞬間がある。街中に出会いの場所が必要。歩く機会の多い場所、目に付く場所に何かしてほしい。
 - ：趣味が次の芸術に昇華するケースがある。漫画・コスプレは、今では日本を代表するカルチャー、観光資源となっている
 - ：多世代交流ができる場として、廃校・廃園を利用したデイサービス、学童、子育て支援、子ども食堂などまとめた場所の提供はどうか。英語・歴史など 1 人一芸を教える講座ができる場所の提供ができたらいい。今回、島田大祭の出前講座を依頼したら来てくれることをはじめて知った。情報共有の場が必要だと感じる。
 - ：人の出会い、情報の出会いといった内容を入れたほうがいいか。地方都市はつなぐ部分が欠けがちだ。
 - ：テレビで「はとバス」を放送していたが、短時間で観光地を周回できる。現代の人が求めている要素だ。
 - ：観光スポットとして、大井川鐵道の無人駅の活用が魅力的。あまり知られていないが、神尾駅はアニメの聖地。少し歩くと断層もある。地元の人が地域の宝として看板を設置している。もっとサポートできないか。そういった小さな活動を掘り起こして磨いていけないか。
 - ：市民会館について、以前、この計画作成という目標があり、その実現のために文化施設が必要だというストーリーが必要だと申し上げた。文化施設を作る場合、この施策のどの部分があたるのか。実現性がないのなら、これでいいかもしれない。ほかに、より具体的な目標ぐらい入るのではないか。「作る」がキーワードに入っているが、新しい作品づくりといった内容が入ってくるといい。
 - ：灰聞すると「おおるり」が十分な劇場ではないことがわかっている。耐用年数は 15 年あり、この計画の年数では見えてこない。
- ：文化施設は市内 3 箇所あるが、市としては、「おおるり」だけを残りの耐用年数 15 年間は文化施設として位置づける。ただし、今の計画では新たに必要とされる施設について記載がない。
- ：「おおるり」の設備は老朽化している。それを直すのが優先である。劇場とは、作品を上映・鑑賞するだけの場ではなく、日頃から人が集う場・交流の場でもある。そこに人材が入り、市民が集まる。そういう場を作っていくために、劇場を作らないと市民の理解は得られない。それを実現するために、島田の顔になるような文化施設をつくろうではないかと結びついていくように計画に書いていったらどうだろうか。また、今後の検証につ

いて、どう具体的に書くか。

- ：検証についてはワーキングで厳しく指摘された。計画を7年にするにあたり例えば2年で評価するなど、文言としてどう盛り込むか難しい。とはいえ、定期的に次にどうつなげていくか評価しなければならない。計画案54ページに記載している。評価の方法、指標までは決めなければいけないが、それ自体もこの期間で策定することは難しいため、この計画の中でやっていくという文言に留めている。協議会は今後も継続していくため、文化事業やこの計画をどうするかを中で揉んでいく。
- ：具体的な目標があった方が評価しやすい。今回は条例もないため、理念的な計画にならざるを得ない。次の改訂で見直していきたい。
- ：施策の柱をつくるにあたり、現在の事業を調べる必要があった。それを整理して資料編とした。来年以降の進行管理については、まだ決めていない。それぞれの事業については、文化芸術に関連するしないにかかわらず事業目標値がぶらさがっている。文化芸術の視点から考えて、目標値を設定してもらうことができないか考えている。この計画に基づき、翌年度以降の事業計画が定まってくる。
- ：この計画は、今度文化施設を作るときの参考になる。この計画に将来の目を入れておかなければいけない。
- ：市民文化祭を行っている。その市民文化祭のポスターを、市内の高校に輪番で回って作ってもらっている。これには、高校の美術部の課題として実施しているという意味と、学生がポスターを描いて、それが市民文化祭のポスターになったことで、大人になったときに、私も文化祭に参加していたと認識してもらいたい。という意味の2つがある。文化協会は、市民に文化活動の場を提供していかなければならないが、それができていないのではないかと感じる。先に出たが、趣味を教える場として金谷宿大学があるので、積極的に参加していただきたい。場があることを発信していかなければいけないが疎かだったと反省している。
- ：髷や祭りなど民俗芸能・文化があり、そこから将来的に新たな文化施設ができるとしても売りになると思う。観光資源にもなる。それらが手軽に見られる・聞ける場所をつくることはいいと思う。いろいろ盛り込まれているが、パンチに欠ける。島田市として出していきたいもの、理解しやすいもの、愛着あるものの方が文化芸術と結び付けやすい。森町では、郷土食と芸能（舞楽）を結び付けている。川越文化について、見たくても博物館で当時の様子を見るができない。
- ：博物館には動きがない。
- ：知っている人しかわからない、ブラックボックス化している。共通の問題意識がない。

- ：雑談しながらアイデアが出てくることもある。わいわいがやがやする場がない。
- ：浜松には駐車場が経営するフリーのコミュニティスペースがある。将来的に、駅前にこういった多世代が集まる「たまり場」のようなコミュニティスペースがあっても面白い。
- ：文化協会のような団体が委託を受けて運営したり、補助金を出したりするなどできないか。ほかの計画との関連もあると思う。
- ：新庁舎の建設により「おおるり」に空きスペースができるかもしれない。そこをコミュニティスペースにした場合、耐用年数経過後にどうするかが課題となってくる。
- ：「おおるり」の空きスペースに今後注目というのを入れておきたい。
- ：周辺整備の計画の位置づけもあるが、このソフト計画の中でどこまでハード面に絡めて表現できるか考えている。

- ：第5章（53 ページ）について、前回のワーキングにおいて、市から、市民が主体、市はサポートする役割ということが読んでわかるようにと話があった。わかる内容になっているかご意見をいただきたい。
- ：昔の商売人は利益に上乗せして、出た利益で文化活動を行っていた。今はそういう時代じゃない。文化活動をやると税金が優遇されるなら、企業は参加すると思う。
- ：認定 NPO や公益法人は寄付の税控除が受けられる。そういった団体を育てていくことが必要ではないか。
- ：企業に税控除の情報を伝えていかなければいけない。
- ：皆さんの印象的なところを伺いたい。協働・連携などの表現を確認していただきたい。特に気になる印象がなければいい。
- ：言い回しは事務局に任せる。

- ：シンポジウムのチラシができた。エクスカージョンは参加無料。川越街道を博物館課長が案内し、蓬萊橋ではお雛子をやる予定。昼食会場として、畳や障子をきれいにした川越街道の番宿を使う。ぜひ皆さんに参加してほしい。

(4) その他

- ・次回は、令和2年2月12日（水）午後4時から行う予定。資料は整い次第送付する。

(5) 閉会